

執筆者紹介（掲載順）

前田 啓一	大阪商業大学 経済学部 教授 当研究所所長	安室 憲一	兵庫県立大学 名誉教授 大阪商業大学 名誉教授
西嶋 淳	大阪商業大学 経済学部 教授	渡辺 俊三	名城大学 名誉教授
明石 芳彦	大阪商業大学 経済学部 教授	金 早雪	大阪商業大学 経済学部 教授

編集委員（50音順）

（○論文審査委員）

○池田 潔	本学総合経営学部 教授	○片山 隆男	本学経済学部 教授・副学長
○石川 雄一	本学経済学部 教授	○金 早雪	本学経済学部 教授
○岩井 紀子	本学総合経営学部 教授	○前田 啓一	本学経済学部 教授・当研究所所長
○閻 和平	本学経済学部 教授	○湯川創太郎	本学経済学部 講師
○太田 一樹	本学総合経営学部 教授	長谷川孝好	本学事務局長
○大西 敏夫	本学経済学部 教授		

◇◇編集後記◇◇

昨年本欄で記したのは、まったく楽観的な見通しだったことがわかってきた。「しぶとくあるしかない」ということだけが、かろうじて的を射ていた。

ところで、この季節の大学では、ここ数年クマゼミ以外のセミの声を聞くことはなかった。子供の頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミなどの鳴き声を聞いた記憶があるのだが、職場である大阪商業大学で聞いたことがあるのは「シャンシャン」という暑苦しい声だけ。そのあたりに散らばる死骸も、奈良ではアブラゼミを見かけることもあるが、この地では、おなかのオレンジが特徴のクマゼミ以外は見なかった。

だが、今年はちょっと趣が違う。ミンミンゼミの鳴き声が混ざっている。朝夕にクマゼミが盛んに飛び交っているのをみたのはじめてだ。セミは7年くらい土で育ち、成虫になってもほぼ行動半径は1メートルほどだという。しかも、本来もう少し涼しい環境に適しているはずのミンミンゼミは7年前にどんな形でこの大学にやってきたのだろう。

大阪市内には珍しく鶯が来ていた実家のあたりは、近隣の大きなお屋敷林がなくなって、今年は鶯が来なかったという。大学の近くでも駅前団地の更地になり、中庭の環境が失われた。その団地のアーケードにはツバメが巣を作っていた。今年はまだ残る別の棟にツバメが巣を作っていたが、うまく戻ってこれたのだろうか。都市環境の中でしぶとく生きているものたち。もはや亜熱帯か熱帯としか思えない大阪でコロナに翻弄されていると、さほどこれらの生物と違いはないのだとつくづく思われる。

（岡村良子）

2021年8月20日 発行

地域と社会 第24号

編集・発行

大阪商業大学比較地域研究所

〒577-8505

東大阪市御厨栄町四丁目1-10

TEL(06)6785-6139

印 刷

株式会社ライジングサン